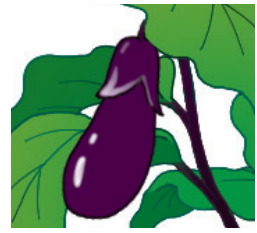


農業を科学する

アグリとサイエンス



「IPM」ってなに？ ～いろいろな方法を組み合わせ、
作物の病気や害虫を防ぐ～

農薬はお米や野菜などを作
るのに役立つているので
すが、頼り過ぎは良くありませ
ん。では、農薬を控えめに使
うには、どのような方法があ
るのでしょうか。

◆農業と農薬

江戸時代にはお米などがほ
とんど収穫できず、たくさん
の人が苦しむ大飢饉が何度も
起こりましたが、害虫による
被害もその原因の一つでし
た。それと比べて、農薬が使
われるようになった現代で
は、食べものが足りなくなる
ほどの被害はほとんど起こら
なくなりました。

こうした農薬のうち、何十

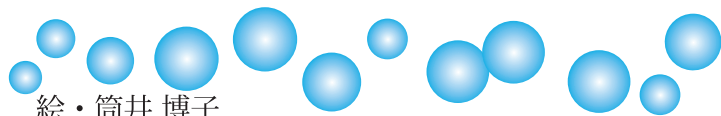
年も前に使われていたものの中には、人の身体や環境に
悪い影響をおよぼすことが後でわかった例もあつた
ため、今では厳しい試験に合格した農薬しか売ることが許
されていません。また、農薬の使い方についてもルール
があり、正しく使われていけば、農薬は安全だと言えま
す。

一方、害虫などの被害を防ぐのに役立つ農薬も、長く
連続して使うとその農薬が効かない病気や害虫、雑草が
あらわれてきます。同じタイプの農薬に頼り過ぎるのは
良くないのです。

また、将来の世代もずっと農業を続けていくために、
今よりもっと環境を大切にしながらお米や野菜を作るこ
とができる技術が求められるようになってきました。

◆注目高まるIPM

このような理由から、農薬と他の方法をうまく組み合
わせる「病害虫や雑草の総合的管理技術」が注目される
ようになりました。これは「IPM（アイピーエム）」
ともよばれ、例えば害虫を防ぐネットを張る、病気や害



絵・筒井 博子



虫に負けない品種を植える、などの方法を使います。IPMによって害虫などの被害を完全に防ぐのは難しいのですが、いろいろな方法を組み合わせることで、農作物の収穫量が大きく減ってしまわないように工夫しています。すでにいくつかの農作物についてはIPMのマニュアルがあり、広く使われています。例えば、IPMを活用した

ナスの農業ハウス栽培では、地域にもとと生息している天敵昆虫に害虫を食べてもらい、農薬の量を減らすことに成功しています。

今後研究が進み、さらに多くの農作物でIPMが利用できるようになることが期待されます。

